

この度、6月23日、金曜日、国の文化審議会ぶんかしんぎかいにおいて、「通潤橋」を「国宝」に指定するよう、文部科学大臣に答申とうしんが行われた、との連絡をうけました。

通潤橋は、約170年前に白糸台地を潤すことを目的として建造され、今も現役の石造せきぞうアーチ水路橋です。今回の答申は、「国宝」としては、県内で2例目ですが、土木構造物どぼくこうぞうぶつとしては全国初の事例にあたりと聞いています。

地域の先人たちが、水源に乏しい台地の地形的な制約に屈することなく、試行錯誤しこうさくごを繰り返し、叡智えいちを結集して生み出されたもので、九州の石橋文化いしぼしぶんかを象徴する素晴らしい建造物であることが評価されたものと受け止めております。

また、通潤橋は、通潤用水の要として、今日でも地域こんいちの農業を支えており、自然と共生してきた、山都町の暮らしを象徴するものでもあります。

今日の美しく、かつ雄大な通潤橋の姿は、これまで数世代にわたり、通潤橋・通潤用水を守ってこられた通潤地区土地改良区をはじめ、各方面で、多大なるご支援をいただいた皆さまの、たゆまぬ活動によるものと、実感しています。

あらためまして、敬意を表すると共に、心より御礼を申し上げます。

今回、「国宝」指定の答申をいただいたことは、本町にとりまして大変<sup>えいよ</sup>栄誉なことであり、町民の皆さまに、このような明るいニュースを報告申し上げることができ、心より嬉しく思っています。

また、今後とも、山都町民とともに、日本の宝として大切に守り、後世に受け継いでいく重責を自覚したところです。

本町では、九州中央自動車道の建設が進められており、本年度中に、山都通潤橋インターまでの開通が予定されています。

通潤橋には、これまでも県内外から、多数の方々にお越しいただきました。この国宝指定によって、さらに、多くの皆さまに、通潤橋、ひいては、山都町の魅力を知っていただく絶好の機会になることと思います。

本町としましては、貴重な文化財を将来に継承していくために、今後もより一層、保存と活用に力を入れてまいりますとともに、町民や関係者の皆さまのご理解、ご協力を賜りながら、この機会を活かして町のさらなる発展につながるよう、努めてまいります。

山都町長 梅田 穰